

# 平成25年度事業状況報告

## (公1事業)

府域の良好な自然環境の保全と里山の保全を推進し、みどり豊かで快適な環境づくりに寄与するため、以下の事業を行った。

国連が定める「国際森林年」であった平成23年度を期に森林の多面的な機能を高めるとともに、その重要性を広める活動を継続して実施している。

その中で、25年度スタートした林野庁所管の里山の保全活動に対する交付金事業（森林・山村多面的機能発揮交付金事業）について、その地域協議会（大阪さともり地域協議会 会長武田 義明）事務局として各地に展開している里山保全活動への助成活動をスタートさせた。

また、2011年から2020年の「生物多様性の10年」として、生物多様性の保全に基づく活動を展開し、持続可能な森づくりを進め、自然との共生に向けた地域づくりを促進する活動を行った。

その中で、当協会の発足25周年を境にトラスト運動の原点である和泉葛城山ブナ林、三草山ゼフィルスノ森、地黄湿地の3つの保全活動地について、シンポジウムを開催してこれまでの知見を踏まえて、活動の方向性について更なる検討を加えた。

また、次世代の子どもたちの「生きる力と健全な資質」を育むため、森づくり活動を通して、継続的な自然体験活動や環境学習を行った。

## I. 府域に残された良好な自然環境や里山等の保全

### 1 貴重な自然環境の保全

府域に残された貴重な自然環境は生物多様性の保全の観点から重要であり、その保全と復元を図るため、当協会のボランティアをはじめ、多くの府民、企業社員のボランティアの参加や大阪府立大学等の研究者の協力を得て次の活動を行った。

- ・貴重な動植物を育む自然環境の保全に関する活動 和泉葛城山ブナ林ほか5カ所
- ・貴重な社寺林（大阪府自然環境保全地域）の保全契約 妙見山ほか4カ所

#### (1) 和泉葛城山ブナ林保全整備事業

国指定天然記念物である和泉葛城山のブナ林は、日本のブナ分布の南限圏にあり、面積が狭小で標高も低いために環境変化の影響を受けやすく、大阪府が取得した周辺森林（バッファゾーン）との一体的な保全が必要である。

しかし、近年の地球温暖化傾向の顕在化による異常気象などの影響を受け、ブナ林の更なる衰退が懸念されている。



新地の管理	5回 参加 46名
・ゼフィルス観察会の開催（6月16日、23日）	参加 39名
・地元小学校の環境教育への協力	
・ナラガシワの苗植栽及び防鹿柵の設置	森林組合に委託
・侵入防止柵の補修	

### （3）能勢町地黄湿地の保全（大阪府緑地環境保全地域）

トキソウ（大阪府RDB：絶滅危惧Ⅰ類）、サギソウ（大阪府RDB：絶滅危惧Ⅱ類）、モウセンゴケ（大阪府RDB：準絶滅危惧）等の希少植物やモリアオガエル（大阪府RDB：準絶滅危惧）や水生昆虫等の貴重な野生動植物が生息する能勢町地黄の湧水湿地の維持管理のための保全作業を行った。また観察用木栈道が腐朽し使用不能となっていたことから、これを撤去した。

ボランティアの協力を得て、陸地化を促進するススキなどの堀りとりや周辺森林の伐採などの作業を行った。

また、周辺地域でのハッチョウトンボの発生地は確認できなかったが、サギソウなど希少な湿地性植物は、数は減少しているが生育を確認した。

（保全面積 18 ha）

・特定外来生物ウシガエルの監視	確認なし
・モリアオガエルの卵塊調査	約 81 個
・トキソウ開花株数	約 5 株
・サワギキョウ開花株数	約 10 株
・ボランティアによる森林整備、湿地の植生管理 （サギソウの観察会含む）	5回 参加 27名
・老朽化した観察用木道の撤去	森林組合に委託
・湿地内に出来た水路の埋め戻し（上部湿地のみ）	森林組合に委託
・地元高校の環境教育への協力	能勢高校 2回

### （4）和泉市信太山惣ヶ池湿地の保全

市街地に隣接しているにもかかわらず、多様な生態系を保っている信太山惣ヶ池の湿地において、保全管理マニュアルに基づき、ボランティアによるササ刈りや帰化植物の抜き取りなどの湿地の管理作業とともに、カスミサンショウウオ（大阪府RDB：絶滅危惧Ⅱ類）やシソクサ（大阪府RDB：絶滅）などの希少動植物の調査も実施した。

シソクサ（大阪府RDB：絶滅）、アギナシ（大阪府RDB：絶滅危惧Ⅰ類）、コモウセンゴケ（大阪府RDB：準絶滅危惧）などの希少植物を今年も確認できた。

（保全面積 3 ha）

- ・乾燥化につながるネザサの刈り払い、帰化植物（アメリカセンダングサやメリケンカルカヤなど）の除去や特定外来生物（ウシガエル）の駆除、耕起作業、立入防止柵の補修等

4回 参加 46 名

- ・シソクサ調査（10月1日（火）  
（2株のみ発見）

1回 参加 12 名

- ・カスミサンショウウオ産卵調査（3月2日（日））

1回 参加 33名

（当日調査では、1卵塊のみ確認）

## （5）八尾水辺エコアップ活動

希少な淡水魚ニッポンバラタナゴ（大阪府RDB：絶滅危惧Ⅰ類）の日本純血種を大阪府内での絶滅を回避するため、野池の環境を整備して、ニッポンバラタナゴの産卵宿主となるドブガイとあわせて増殖に取り組んだ。

継続的にため池への水の安定確保が必要であるが、毎月の保全活動により、水環境は一定に保たれている。ニッポンバラタナゴやドブガイは、今年も確認できた。

（保全池面積 0.1 ha）

- ・ヘドロの除去、ドブガイの生育環境の改善のための山土の補給、水路の維持管理、池の堤の補修、ため池周囲の草刈り
- ・ため池周辺の生きもの調査（6月11日（火））
- ・ドビ流しによる池の浄化作業と生きもの調査（11月3日（日））

12 回 参加 105 名

1 回 参加 7 名

底樋からの排水路の老朽化により落石で水路が詰まっており、中止

## （6）大和葛城山カタクリ群生地の保全

府内で唯一、カタクリの群落とともにギフチョウ（大阪府RDB：絶滅危惧Ⅱ類）が生息している。しかし、周辺からのササ等の侵入を防ぐための刈り払いや立入防止柵の改修等をボランティアが実施した。

近年、ギフチョウの採集圧がその生息数にも影響を及ぼすほどである。そのため、ギフチョウの産卵調査やその餌植物のミヤコアオイの調査などについても大阪府立大学や日本チョウ類保全協会などとも協力しながらボランティアが実施した。

また、新たにカタクリの観察会や親子の自然観察会も実施し、地元の理解者の拡大を図った。

(保全面積 3 ha)

## (7) 大阪府自然環境保全地域（社寺の貴重な自然林）の保全事業

社寺に残るすぐれた自然林は、大阪の潜在的な自然植生を知る上で重要で、地域の極相林の特色をあらわしている。そのため、大阪府自然環境保全地域に指定されている以下の5カ所について、管理者との保全契約を締結し、その社寺林の維持管理を支援した。特に、鹿の食害による下層植生の衰退が激しい妙見山真如寺に対しては、防鹿柵の提供等の支援を行った。

(保全面積 38 ha)

・妙見山自然環境保全地域	(能勢町 10 ha)
・本山寺自然環境保全地域	(高槻市 14 ha)
・若山神社自然環境保全地域	(島本町 11 ha)
・美具久留御魂神社自然環境保全地域 <small>みぐるみたま</small>	(富田林市 2 ha)
・意賀美神社自然環境保全地域 <small>おがみ</small>	(岸和田市 1 ha)

## 2 里山の保全

かつて里山は人々の暮らしを支える森として利用されてきたが、燃料革命などの生活様式の変化等により手入れされなくなった雑木林や人工林を再生するため、(社)国土緑化推進機構からの助成や企業からの寄付などを受けて、ボランティアによる間伐、下刈り、つる切り等の森林保育作業を5カ所で行った。

里山保全活動を地域に根づいた持続性のある活動とするため、各活動地でボランティア団体を組織して自主的な活動を進めた。

各地域の特色として、炭焼きや薪づくりなど、木質バイオマスとしての有効活用を促進し、本来の里山管理による再生可能エネルギーとして里山の持続可能な利用に寄与している。

また、各活動地を企業によるCSR活動のフィールドとして活用するため、それぞれのボランティア団体が指導者となってその活動を受け入れた。

## (1) 各活動地のテーマ及び実施状況

- ① 茨木市車作の森 (多様な動植物を育む里山の再生：40ha)  
「車作里山倶楽部」 23回 参加 524名
- ② 島本町大沢の森、水無瀬水源の森等 (山村と都市の交流：18ha)  
「島本森のクラブ」 24回 参加 580名
- ③ 貝塚市蕎原の森 (台風被害森林の復旧：11ha)  
6回 参加 79名
- ④ 泉佐野市いずみの森 (ボランティアによる森づくり西日本拠点：31ha)  
「いずみの森ボランティアの会」 (※(社)国土緑化推進機構から助成)  
38回 参加 695名
- ⑤ 泉南市堀河の森 (企業ボランティアによる森づくり：11ha)  
6回 参加 212名

## (2) 企業によるCSR活動の受け入れ

- ・三草山ゼフィルスの森 1件 (京セラドキュメント株式会社)  
ゼフィルス観察会、ナラガシワの植栽など  
参加 10名
- ・いずみの森 6件 (近畿大阪銀行、コンドーテック株式会社、箭木木工所、マルイグループ、いずみ市民生協、ミライトテクノロジーズ)  
里山保全活動として、雑木林の伐採整理、枯れ松の処理、植栽地の下刈り、植樹、作業路づくり、薪づくり等に協力  
参加110名
- ・堀河の森 1件 (株式会社NTTドコモ関西支社)  
企業の森の里山保全活動として、雑木林の伐採整理及び植栽地の下草刈り等に協力  
参加 163名
- ・蕎原の森 1件 (ミライトテクノロジーズ) 参加 11名
- ・和泉葛城山ブナ林 2件 (JP労組、アサヒディード) 参加 68名

### 3 大阪さとり地域協議会における里山の保全

林野庁の「森林・山村多面的機能発揮対策交付金事業」の実施に当たり、都道府県にひとつ設置される「地域協議会」の事務局を、当協会が担った。

「森林・山村多面的機能発揮対策」とは、地域住民が森林所有者、NPO 法人、民間団体など作った民間協働組織（活動組織）が実施する里山林の保全管理や森林資源を利用するための活動に対して、交付金による支援を行うものである。地域協議会は事業実施計画の作成指導、活動組織の活動計画の審査及び取りまとめ、国への申請書提出、活動状況の確認、実施内容検査、活動組織への交付金の交付、国への実施状況報告等を実施した。

交付金交付活動組織数	46 団体
活動面積等総計	268. 3ha
(内訳) 里山林保全タイプ	191. 2ha
竹林保全タイプ	50. 7ha
資源利用タイプ	26. 4ha
空間利用タイプ	105回
資機材設置	21件
(チェーンソー・刈り払い機など)	

### 4 生物多様性の保全

日本でのCOP10（生物多様性条約第10回締約国会議）開催を契機に、生物との共生にも観点をおいた里山づくりを進め、ボランティアや地元を含む学校等とともに身近な生物相の調査などを行った。

新たに、遊休農地を活用し、地域と環境を蘇らせて、生き物との「つながり」を尊重した生態系を再生し、地域の自然に根ざした「人と生き物にやさしい農業」を試みた。また、水田とその周辺の生態系は、生物多様性の保全上、世界的にも非常に重要視されており、里地里山の保全を一層進めていくものである。

今後、地域的な取り組みを加速することにより、「生物多様性の保全」の継続的な運動として行く必要がある。

#### ○生きもの調査

【既存の活動地】（※再掲のものを含む）

・歌垣の森ギフチョウの調査（成虫、卵）

4月29日

・八尾ため池生きもの調査	6月11日
・地黄湿地モリアオガエルの調査（卵塊）	6月23日
・地黄湿地トキソウ調査	6月23日
・倉垣の森キマダラルリツバメの調査（成虫及び吸蜜植物）	6月23日
・信太山惣ヶ池湿地シソクサ調査	10月1日
・三草山オオムラサキの調査（越冬幼虫）	1月12日
・信太山惣ヶ池湿地カスミサンショウウオ卵塊調査	3月2日

### ○モデル地区の活動

#### ・蝶の舞うまちづくり

能勢町倉垣の森

生息地のクリ園の一部を学校林的な位置づけを行い、キマダラルリツバメ（大阪府RDB：絶滅危惧Ⅱ類）の保護のため、下草刈り等の管理活動を行った。

保全活動

2回 参加 12名

#### ・生物多様性農業への理解促進

能勢町神山遊休農地

稲作水系の水生生物の多様性（タガメの復活）の回復  
（「総合学習」での体験や「食育」への取り組み）

※復活した水田面積（1,298㎡）

保全活動

23回 参加 231名

関西大学第一中学校との連携で各学期に各学年約260名が参加  
PTA主催の稲刈り体験、生徒と親子が参加

4回 参加 915名

## Ⅱ. ボランティアの育成

非日常的な体験や自然とのふれあいを通じ、みどりや自然への関心を高めるためボランティアの養成を行った。なかでも森林保全や里山の循環的利用などの基礎的な技術と知識を習得できる講座を開設し、ボランティアの人材確保及び育成を図った。より広く森林に関わる機会を提供しボランティアの拡充を図るための講座も継続し行った。

一方、緑化行事等においては、自然素材を使ったクラフトの指導者や観察会等の講師を派遣した。

次代を担うボランティアの育成のために、学校教育との連携を図り、総合学習時の森林



体験学習の開催などを通じて、当協会が進めている保全活動への理解と参加を促すとともに、その活動地の活用を図った。また、大阪府緑の少年団の育成にも努めた。

## 1 ボランティアの養成

### (1) ボランティア養成講座の開催

#### ・里山ボランティア養成講座 ～月に一度は里山生活～

美しい里山景観が残る能勢町において、地元ボランティアの協力のもと、伝統的な文化や暮らしにつながる里山と人々のかかわりについて学ぶ「里山ボランティア養成講座」を開催し、新たなボランティアの発掘とその育成を行った。

とくに、修了後は当協会の生物多様性の保全活動への参加につながっている。

5月開講（年8回のうち7回実施）

参加者 のべ159名

#### ・森人塾（第4期） ～フォレスターカレッジ～

大阪森林インストラクター会の協力のもと、森と人をつなげる人材の養成あるいは森林と人の関わりに対してより広い視野でもって活動に参加できる人材の育成と発掘のための講座を開設した。

既存のボランティアと次世代をつなげる段階的な位置づけで、当協会の保全活動はもちろんのこと、各地域での独自の活動への参画を促すことができた。

4月開講（年12回）

受講者 21名

参加計 217名

## 2 ボランティア活動の実施とクラフトボランティアの派遣

良好な自然環境や里山の保全及び緑化の推進を図るため、各フィールドでの継続的なボランティア活動の実施、あるいは、緑化行事などでの木工クラフトの指導者として登録ボランティアを派遣した。

ボランティア活動に必要な用具や資材を整備すると共に、活動時の事故対策として、傷害賠償保険に加入した。

・ボランティア活動 236件 3,052人

・クラフト指導者の派遣 8件 派遣数 14人

### 3 “みどりすと” 制度の再構築

“みどりすと”は、当協会の発足とほぼ同じ時期に、みどりのトラスト運動の直接的な担い手として、公募により集められたボランティア集団としてスタートした。発足当初は協会が保全活動地からの要請により、みどりすとを派遣するスタイルで活動していた。その後、各所でみどりすとにより保全活動地が新たに設定され、各活動地に所属する形で保全活動が行われ、現在に至っている。

活動地毎に多少のボランティアの出入りはあるものの、基本的には当初のメンバーがその場で年を重ねてきたものであり、トラスト活動の発展を考え、改めてボランティアの募集システムを再構築するとともに、活動組織がないか、高齢化の著しい活動組織のテコ入れを進めるため、“みどりすと”の大募集を行い、次年度早々には、活動組織のない活動地でのみどりすとの再構築を推進する。

みどりすと登録者数	1 2 3 人
(内訳)	
個人登録数	4 1 人
団体登録数	5 団体
(団体所属人員	8 2 人)

### 4 環境教育への協力や緑の少年団の支援

緑とふれあう体験活動を通じて、緑を守り育てる心豊かな人間性をもつ青少年を育成するために、大阪府緑の少年団連盟の交流集会や学校等の教育機関からの依頼を受けて、講義や自然の中での体験学習等を行った。

- ・大阪府緑の少年団連盟の実施事業

大阪府緑の少年団交流集会

日程：平成25年9月29日（日）

場所：紀泉わいわい村（泉南市）

参加：148名

- ・学校等教育機関への協力

小学校（2校：泉佐野市上之郷小学校、末広小学校）

2件

中学校（1校：関西大学第一中学校）

3件 参加のべ 915 名

### Ⅲ. 普及啓発等事業

平成25年度が当協会発足25周年に当たることから、四半世紀に及ぶボランティア活動等に対して感謝状を贈呈するとともに、トラスト運動の原点である三草山ゼフィルスの森、地黄湿地（以上、能勢町）と和泉葛城山ブナ林（岸和田市・貝塚市）の保全活動について、これまでの活動実績を踏まえて今後の活動方向についてシンポジウムを開催し、公開の場で議論を深めた。

自然環境の保全と緑化の推進についての認識を深め、トラスト運動への積極的な参加を促進するため、当協会事業地を活用した自然観察会の開催などを引き続き実施した。

#### 1 協会発足25周年記念シンポジウムの開催

平成25年11月18日（月）	参加者総数	87名
基調講演	I 地黄湿地の再生に向けて	服部兵庫県立大名誉教授
	II 三草山ゼフィルスの森の保全方向について	石井会長
	III 和泉葛城山ブナ林の保全方向について	森川大阪府立大准教授
パネルディスカッション	コーディネーター	前迫大阪産大教授

#### 2 普及啓発のためのイベントの開催

自然観察会などの実施により自然に触れ、楽しみ、学ぶ体験を通じて自然環境の大切さを啓発した。また、当協会事業の理解及び森林保全活動への市民の参加と支援を求めた。（再掲含む）

・大和葛城山カタクリ観察会	4月28日（日）	
・三草山タガメの田づくり	5月26日（日）	
・地黄湿地トキソウ観察会	6月23日（日）	
・倉垣キマダラルリツバメ成虫観察会	6月23日（日）	
・三草山ゼフィルス観察会	6月16日（日）	
・地黄湿地サギソウ観察会	8月3日（土）	
・車作の森キツネノカミソリ観察会	8月17日（土）	
・いずみの森自然体験	10月26日（土）	雨天中止
・八尾ドビ流しによる生きもの調査	11月3日（日）	中止
・三草山シイタケ植菌体験	2月1日（土）	

### 3 情報誌等の発行

当協会会員をはじめ行政機関、府民に協会の活動状況や自然に関する情報を提供するため、会報「みどりのトラスト」を年3回（8，12，4月）発行した。

ホームページを充実させることにより、効果的な情報提供やCSR活動支援に対する取り組みなどの充実を図った。

・会報 3回（第75号～77号） 計 30,000 部

### 4 会員の募集

当協会の保全活動や緑化関係各種イベント、会報・パンフレットの配付等を通じて会員の拡大を図った。特に、CSR活動サポート用のパンフレットを活用し、企業や団体の法人会員の加入をよびかけた。

・新規会員登録者数 個人 93 人、法人 9 団体  
（平成25年度会員数 個人 705 人、法人 45 団体）

### 5 普及啓発委員会の開催

当協会の事業実施に当たり、専門的知識を要する事項について助言を得るために次の専門委員会を開催した。

・普及啓発委員会 3回  
会報「みどりのトラスト」の編集及び緑の募金、その他、広報及び普及啓発活動について協議、検討

### 6 御堂筋アメニティ事業

社団法人御堂筋アメニティ・ソサエティが、平成25年3月31付で解散するに伴い、平成25年度から当協会が御堂筋アメニティ事業を譲り受けた。

今年度は、御堂筋の美観を全体的に向上させる為、大阪市・花博協会・当協会と連携し下記の事業を実施した。

#### 1) フラワーベースの最適配置と整理統合

同じく御堂筋の緑地帯に設置される大阪市のフラワーベースと当協会のフラワーベースを共にバランスよく配置する為、当協会の既存フラワーベースの一部を移設し最適配置した。また、老朽化したフラワーベースを撤去し、86基から66基に整理統合した。

#### 2) 植付け草花の統一

大阪市のフラワーベースと同様の草花（マーガレット・ヘデラ）を植付け、緑地帯にあるフラワーベースの草花に統一性をもたせた。

尚、これらの事業は、大阪マラソンの開催日(10月26日)前に完了することができた。

(植付け完了日：平成25年10月22日)

### IV. トラストファンド

和泉葛城山ブナ林とこれを取り巻く森林を一体的に保全するための「ブナの森トラストファンド」及び能勢町三草山に生息するミドリシジミ類の蝶類の保護のための「ゼフィルスの森トラストファンド」の増額に努めた。

#### ○ブナの森トラストファンド

・ 寄附件数及び寄附金額	40 件	719,785 円
(平成26年3月末現在 累計	3,849 件	53,137,455 円)

#### ○ゼフィルスの森トラストファンド

・ 寄附件数及び寄附金額	22 件	108,781 円
(平成26年3月末現在 累計	2,008 件	29,413,346 円)

2 ファンド合計 累計5,857件 82,550,801円

## (公2事業)

「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」に基づき「緑の募金」運動を積極的に展開し、市街地の緑化の推進、森林の整備、緑づくりの活動支援等に努めた。

「緑の募金」運動を進めるにあたっては、幅広い参加による府民運動とするため、大阪府ならびに府内市町村、学校、青少年団体、経済団体、企業、市民団体の協力を得て実施した。

### I. 募金運動

#### 1. 緑の募金運動の推進

##### (1) 募金資材の整備

募金運動を実施するため、緑の羽根、募金箱、PRポスターなどの資材を購入し、募金実施団体に配布した。

ア. 緑の羽根 530,000本

イ. オリジナル募金バッジ 秋季(H25用):「イロハモミジ」 5,000個

春季(H26用):「ヤマアジサイ」 18,000個

ウ. 募金箱、タスキ、ポスター・パンフレット等

##### (2) 募金運動の推進

ア. キャンペーン期間

(春季) 平成25年3月1日から 5月31日まで

(秋季) 平成25年9月1日から 10月31日まで

イ. 募金の実施

- ・ 街頭募金、学校募金、職場募金、家庭募金、企業募金等により行った。

- ・ボーイスカウト、ガールスカウト、緑の少年団などの青少年団体や地域女性団体などによる街頭募金をはじめとして、企業や店舗の他、公共施設等に募金箱を設置して実施した。

#### ウ. 募金運動の PR

- ・各報道機関に「緑の募金」運動の周知・協力を要請した。
- ・大阪府庁舎（本館・別館）に懸垂幕を掲出した。
- ・トラスト協会主催の街頭募金キャンペーンを協力団体の参加を得て実施した。

#### 《 街頭募金キャンペーン 》

区分	実施日	場 所	協力団体
春季	5 / 19	南海なんば駅 南海会館前	大阪市地域女性団体協議会 (7名)、緑の少年団いちょう(8 名)、協会(1名)
秋季	10 / 12	大阪城公園 太陽の広場	協会クラフトボランティア (2名)、協会 (3名)
秋季	10 / 29	南海なんば駅 三井住友銀行前	府立港南造形高等学校 (7名)、協会 (2名)

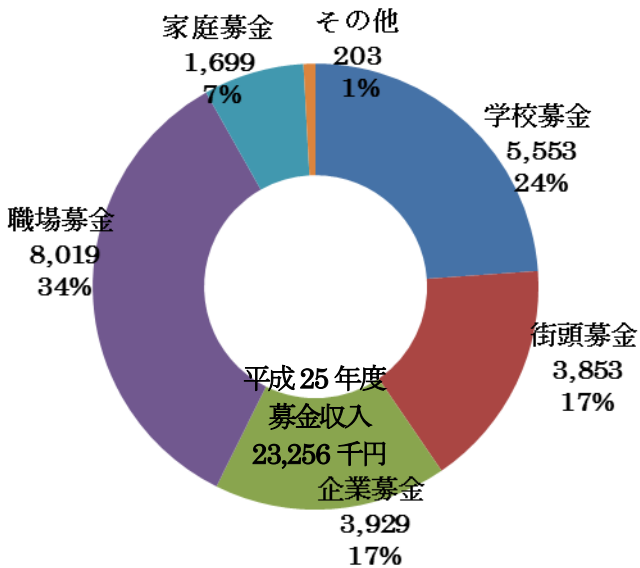
- エ. その他、大阪府立大学桜まつり、水都おおさか森林(もり)の市、平林まつり及び市町村やその他の団体緑化行事で募金活動を行った。

## 2. 募金実績

平成 25 年度の募金総額は目標 30 百万円に対して、実績 23,256,820 円 (1,005 件) だった。平成 24 年度に比べ金額で 1,541,621 円、件数で 82 件の減少となった。

【平成25年度種別別募金額】

(単位 千円)



【平成23～25年度種別別募金額】

(単位 千円)

	H23年	H24年	H25年	前年比%
学校募金	5,409	5,818	5,553	95.4
街頭募金	2,280	3,946	3,853	97.6
企業募金	4,997	5,492	3,929	71.5
職場募金	8,945	7,570	8,019	105.9
家庭募金	895	1,655	1,699	102.7
その他	364	317	203	64.0
<b>合計</b>	<b>22,890</b>	<b>24,798</b>	<b>23,256</b>	<b>93.7</b>
件数	996	1,087	1,005	92.5

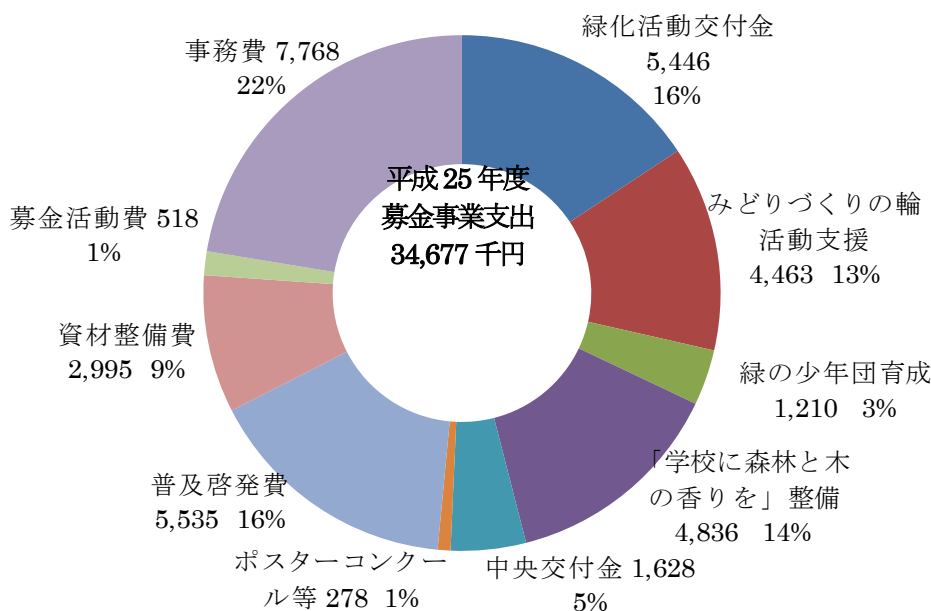
II. 事業の実施

1. 緑の募金事業支出

平成25年度の事業支出総額は34,677,620円で、次の表・グラフのとおり事業を実施した。

【平成25年度科目別事業支出額】

(単位：千円)



科目	金額
緑化活動交付金	5,446
みどりづくりの輪活動支援	4,463
緑の少年団育成	1,210
「学校に森林と木の香りを」整備	4,836
中央交付金	1,628
ポスターコンクール等	278
普及啓発費	5,535
資材整備費	2,995
募金活動費	518
事務費	7,768
<b>合計</b>	<b>34,677</b>



## 2. 緑化推進と森林の整備

### (1) みどりづくりの輸活動支援事業（事業費 4,462,812 円）

NPO法人ならびに市民グループが行う市街地の緑化推進や、学校が市民やPTAと協力して行うビオトープ整備活動に助成をおこなった。

平成25年度申請件数：16件 採択件数：15件

#### 【助成内容および採択先】

##### 森林整備

- ・東大阪フォレストクラブ
- ・森区山地保全会（交野市）

##### ビオトープづくり

- ・大阪市立育和小学校
- ・阪南市立波太小学校
- ・大阪市立北粉浜小学校
- ・吹田市立吹田第2小学校
- ・高槻市立如是中学校
- ・自然遊学館わくわくクラブ（岸和田市）

##### 市街地緑化

- ・太平寺幼稚園（堺市）
- ・ふじ幼稚園（門真市）
- ・御幸幼稚園（守口市）
- ・貝塚市立中央小学校
- ・高槻市立冠中学校
- ・大阪府立泉尾高等学校
- ・ビートルレンジャー実行委員会（交野市）

#### 【過去3年間の助成実績】

助成内容	平成25年度 2,980千円	平成24年度 3,813千円	平成23年度 2,604千円
森林、里山の整備	2箇所	4箇所	なし
ビオトープづくり	6箇所	7箇所	7箇所
市街地緑化	7箇所	2箇所	2箇所
合計	15箇所	13箇所	9箇所

また、地球温暖化防止にかかる運動の一環として、行政、府民、NPO、企業等多様な主体が協働して植樹に取り組む堺第7－3区での『共生の森』づくり活動や、生駒山系での『花屏風』活動に対し支援を行なった。

(2) 「学校に森林と木の香りを」整備事業（事業費 4,835,510 円）

教育施設において、森林の整備、木材の利用、緑の効用について理解を深めるとともに、木の香る快適な学習環境を提供するため助成を行った。

申請件数：10 件、採択件数：10 件

【採択先及び整備内容】

- ・ 富田林市立富田林幼稚園 : 屋外活動向け机・椅子の設置
- ・ 和泉チャイルド幼稚園 : ウッドデッキの設置
- ・ 豊中ほづみ保育園 : 園内什器の木質化
- ・ 富田林市立彼方小学校 : 図書室内外の木質化
- ・ 貝塚市立二色小学校 : 視聴覚教室の木質化
- ・ 大阪市立平林小学校 : 多目的教室の木質化
- ・ 大阪市立新北島中学校 : 中庭整備に伴うパーゴラの設置
- ・ 城南学園高等学校 : 生徒相談室などの什器の木質化
- ・ 大阪府立淀川工科高等学校 : 中庭に木製ベンチ、テーブルの整備
- ・ 大阪府立池田高等学校 : 杉スリットパネルの図書室他への配置

(化学物質過敏症対策)

【過去 3 年間の実績】

年度	件数	合計金額 (千円)
平成 23 年度	5 件	2,279
平成 24 年度	6 件	2,646
平成 25 年度	10 件	4,835

(1) (2) の助成については、平成 25 年 9 月 4 日に平成 25 年度みどりづくりの輪活動支援事業等助成事業審査会を実施のうえ、採択を決定した。

**(3) 緑の少年団の育成 (事業費 1,209,820 円)**

大阪府内の「緑の少年団」の育成とその活動の充実を図るため、各地の緑の少年団が行う活動に助成した。

・大阪府における緑の少年団 (平成 26 年 3 月 31 日現在)

10 団体 609 名 (団員 491 名、指導者 118 名)

### 3. 緑化の活動と普及啓発

**(1) 募金団体による地域緑化の推進 (事業費 5,445,914 円)**

地域や学校等の緑化を推進するため、募金額の一部を緑化推進事業等交付金として募金団体に交付し、植樹、花壇の整備、緑地の手入れ等の緑化活動を行った。

・交付件数 694 件

**(2) トラスト感謝祭の開催 (事業費 74,600 円)**

国土緑化運動ポスターコンクール入選者及び緑の募金キャンペーンバッヂデザイン考案者の表彰、感謝状の授与、並びにポスター原画作品の展示を行った。

と き：平成 26 年 3 月 23 日 (日)

と ころ：ATC グリーンエコプラザ (多目的スペース)

表彰ほか：12 名 (当日参加者 52 名)

**(3) 国土緑化運動ポスターコンクールの実施 (事業費 203,189 円)**

児童、生徒の自然や緑への関心を高めるために、府内小・中・高等学校の協力を得て平成 26 年度用ポスターコンクールを行い、優秀作品を国土緑化推進機構が行う全国コンクールに応募した。

- ・応募者数 265 名（参加者総数 1,815 名）
- ・トラスト協会賞 18 点
- ・全国コンクールに優秀作品 14 点を中央審査会に推薦  
文部科学大臣賞受賞 1 名

（作品は別添【会報 77 号】で紹介）

#### （4）中央交付金（事業費 1,628,600 円）

募金中央団体である（公社）国土緑化推進機構が行う全国規模での緑化事業に要する経費を、平成 25 年募金額の 5%+50 万円交付した。この内 2%は東日本大震災関係の用途限定募金となる。

#### （5）普及啓発活動の実施（事業費 5,534,572 円）

- ア．懸垂幕をみどりの月間（4 月 15 日～5 月 14 日）と山に親しむ推進月間（11 月）に大阪府庁舎で掲出した。
- イ．「緑の募金」について、当協会の会報「みどりのトラスト」に募金活動に関する記事、募金協力団体（大阪商工会議所）の機関誌に広告を掲載し、普及啓発活動を行った。
- ウ．上田正樹氏ほかを迎えて「緑の募金東日本大震災復興支援チャリティコンサート in 西日本」を開催した。

と き：平成 25 年 6 月 29 日（日）

と ころ：ATC 海辺のステージ

### Ⅲ. 募金成果の公表

「緑の募金による森林整備等の推進に関する法律」第21条に基づき、平成25年度に実施した緑の募金事業結果について次の通り当協会ホームページに掲載し公告する。

1. 平成25年度緑の募金による寄付金総額 23,256,820 円

#### 2. 募金団体が行う緑化事業等のための交付金の交付状況

交付先	件数	交付額(円)	募金額(円)	交付率%
公立学校	506	1,665,269	4,664,191	35.7
私立学校	9	153,200	605,929	25.3
私立幼稚園	11	96,500	282,720	34.1
ボーイスカウト	81	894,900	2,262,737	39.5
ガールスカウト	39	282,800	711,859	39.7
緑の少年団	5	131,235	343,152	38.2
女性団体協議会	1	158,400	396,000	40.0
市町村	22	1,728,270	4,633,709	37.3
その他	20	284,040	9,356,523	3.0
振込手数料等		51,300		
合計	694	5,445,914	23,256,820	23.4

#### 3. 緑の募金の使途

事業区分	支出額(円)	事業内容
1. 市街地の緑化と森林の整備	10,508,142	みどりづくりの輪推進費、緑の少年団育成事業費、「学校に森林と木の香りを」整備事業
2. 緑化活動交付金	5,445,914	募金団体が行う緑化活動への助成
3. 募金資材購入費	2,995,591	緑の羽根等募金資材の購入
4. 募金活動推進費	6,331,040	募金活動費、ポスターコンクールの実施、普及啓発費、トラスト感謝祭
5. 推進事務費	7,768,333	事務費
6. 中央交付金	1,628,600	(公社)国土緑化推進機構
合計	34,677,620	

(注) 詳細については、公益財団法人大阪みどりのトラスト協会事務所、当協会のホームページで閲覧することができる。

#### IV. 緑化推進運営協議会の開催

緑の募金運動を展開するため、次のとおり緑化推進運営協議会を開催し、事業計画、収支予算等を審議した。

- ・第41回

平成25年5月22日（水） 平成24年度 事業報告、収支決算

- ・第42回

平成26年2月27日（木） 平成26年度 事業計画、収支予算

## (管理部門)

### 1. 会議開催状況

理事会、評議員会の開催状況は以下の通り。

#### (1) 理事会

##### 第4回理事会（平成25年5月28日）

第1号議案 「平成24年度事業報告について」

第2号議案 「平成24年度決算について」

第3号議案 「平成25年度収支予算の補正について」

第4号議案 「規程の改正について」

第5号議案 「第2回定時評議員会招集について」

報告事項

##### 決議の省略（平成25年7月25日）

第1号議案 「トラストファンドの一時的取り崩しに関する件」

##### 第5回理事会（平成26年3月12日）

報告事項 「平成25年度の業務執行状況の報告」

第1号議案 「平成25年度事業計画・収支予算の補正について」

（大阪さとり地域協議会事業）」

第2号議案 「平成26年度事業計画について」

第3号議案 「平成26年度収支予算について」

「設備投資及び資金調達の見込みについて」

第4号議案 「財産運用計画について」

「財産運用規程の改正について」

第5号議案 「中短期計画及び今後のトラスト協会運営について」

第6号議案 「常勤役員の報酬額の決定について」

(2) 評議員会

**第2回評議員会（平成25年6月12日）**

報告事項 「平成24年度事業報告について」

第1号議案 「平成24年度決算について」

第2号議案 「理事1名の選任について」

第3号議案 「監事1名の選任について」

**決議の省略（平成25年8月3日）**

「トラストファンドの一時的取り崩しに関する件」

**2. 内部管理体制の整備状況**

平成25年度において下記規程の改正を実施し、財団運営・管理面での強化を図った。

(1) 嘱託職員等就業規則の改正（平成25年5月28日）

(2) 文書管理規程の改正（平成25年5月28日）

(3) 財産運用規程の改正（平成26年3月12日）

平成25年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。